

INFORMATION

T&D情報システム株式会社

2019年3月1日

日本アクチュアリー会の第58回IT研究大会で、当社従業員が共同執筆した論文が優秀論文賞などを受賞しました。

日本アクチュアリー会の第58回IT研究大会(2019年1月24日開催)(*)で、当社従業員が共同執筆した論文が優秀論文賞などを受賞しました。

■研究テーマ

- ①オープンAPIの有用性と保険業界が起こすイノベーション【優秀論文賞】
 - ・古賀洋平職員
 - ・土居毅彦職員(以上、事業三部)
- ②ブロックチェーン技術の保険事務・保険商品への適用可能性【プレゼン賞】
 - ・飯高祐一職員
 - ・高橋幸太職員(以上、事業三部)

■発表内容

- ①近年、オープンAPIを活用し、成果を上げる企業が増えています。飽和状態である保険市場に活路を見出すべく、保険業界でのオープンAPIの活用について研究し、その研究結果をもとに、今後保険業界が起こすイノベーションについて提言しました。
- ②近年、世界的にFinTechが拡がりを見せる中、保険業界でも、保険契約への適用に向けた実証実験が推進されるなど注目を集めています。ブロックチェーン技術について研究し、特に改ざん耐性の高さや、契約や決済の自動実行などのメリットを活かした保険事務・保険商品への適用について提言しました。

■本人コメント

- ・研究論文の作成過程は決して平坦なものではなく、方向性に思い悩むような時期もありましたが、研究会メンバーと協力しあって乗り越え、その成果を評価していただいたことを嬉しく思います。今後も技術革新により保険業界の変革が進むと予想されますが、この受賞を励みにし、これからも学び続け、業務へ活かしていきたいと思っております。(古賀)
- ・同業他社のメンバーと1つの目標に向かって取り組むことは、日常業務では経験することのできない貴重な経験でした。また、研究テーマに限らず最新のIT動向を情報収集することの大切さを実感できました。(土居)
- ・最新技術や他社生保の動向など、研究会の活動を通じて学ぶことが多く、実りのある活動を実施することができました。実際にプレゼンテーションで発表したため、プレゼンテーション力の向上だけでなく、大勢の前での発表に対する自信をつけることができました。(飯高)
- ・同業他社の研究会メンバーと一緒に議論しプレゼンテーションや論文を作成することは普段の業務では得られない良い刺激になりました。また、最新技術だけではなく他社生保の動向や働き方について知ることができたのが興味深かったです。この経験を今後の自分の業務に活かしたいです。(高橋)

(*)日本アクチュアリー会は、1899年に創立されたアクチュアリー学の研究調査やアクチュアリー教育・育成など幅広い活動を行う公益社団法人。法人会員は、大手金融機関を中心とした108社。IT研究会は、業界共通テーマについて各社のシステム部門の若手で調査・研究グループを組織し、調査・研究活動を行っている。その成果は年一回のIT研究大会で発表し、研究論文としてまとめている。研究会の活動は調査・研究が主目的だが、各社のシステム担当者間の交流を深め、また相互研鑽の場ともなっている。

以上

本件に関するお問合せ先

T&D情報システム株式会社
経営企画部 経営総務課 048-825-6101